

---

株式会社マイナビ  
「高校生向けインターン普及を通じた  
地方中小企業×教育のムーブメントの創出」

# 背景と事業の狙い

## 背景

地域企業における人材不足の背景には、進学を機に地域から出て戻ってこないこと等がある。弊社教育地域創生部はその一因として、進学前の高校生（特に進学希望者層）と地域企業・産業との接点が少ない事があるのではないかと考えた。

### 【各対象者における課題感】

- 高校生：高校在学時、地域や地域企業との接点がない。進学希望者（特に進学を機に地域を離れる）はさらに企業との接点が少ない。
- 教員：普段より業務の量が多く忙しい。
- 地域企業：高校生に対して大学進学前にアプローチができていない。

地域社会・産業界と教育現場を繋ぎ、高校生が自身のキャリアを考えながら地域産業や社会を知ることができる「フィールドスタディプログラム」を構築することで、将来的に地域企業でチェンジメーカーが活躍するような流れを作り出す。

※フィールドスタディとは「高校生（進学希望者）向けの地域企業と連携した学び」と定義しています。

## 事業の狙い

弊社教育地域創生部が構築するプログラムでは高校生の身近にある企業や住んでいる地域の経済圏を“リアルな教材”として扱っている。本プログラムを通して、高校生は自身のキャリアを考えながら地域や社会を知ることができ、地域への関わり方を『自分事化』して考えることができる。これにより、将来的な地域経済の担い手の育成のほか、Uターン就職といった地域企業への人材還流なども期待できる。

今回の実証では対象者毎に課題感を明確にし、プログラムの一部を実施することで各対象者に対するプログラムの評価・検証を行う。

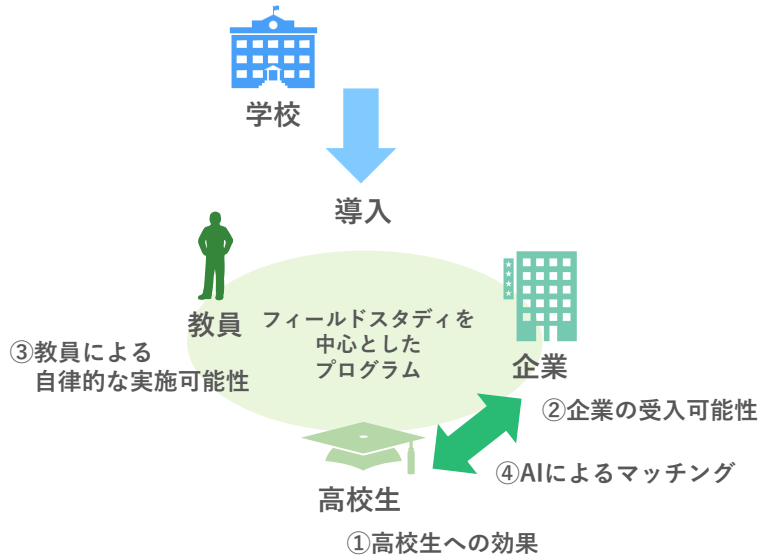
### 【各対象者の狙い】

- 高校生：地域への関わり方を『自分事化』して考えることができる。単なる仕事体験ではなく、「学び」と「仕事」をつなげて考えられるようになる。
- 教員：新学習指導要領に則しており、誰でも指導・実施が可能。
- 地域企業：大学進学前の「教育」の重要性に意識を向けさせる。受入負担を減らし導入負荷を軽減。将来地域に貢献する人材育成につながる。

# 実施内容

今回の実証対象としては、地域企業と接する機会が少ない「進学希望」の高校生を選定。熊本県および群馬県の2校で実証を行った。高校生を受け入れる地域の企業は、趣旨にご賛同いただける企業や地域未来牽引企業を中心に協力いただいた。高校生が訪問する企業は、AIを活用し選定。高校生の興味関心やパーソナリティなどに基づき企業をマッチングさせることで、高校生がまだ気付いていない地域の魅力ある企業への気付きが得られるようマッチングロジックの検証を行った。高校現場、受入企業の課題抽出については札幌市および浜松市にて研究会を実施した。

## 実施要件について



| 検討項目              | 実施内容  | 実施場所                                     |
|-------------------|---|--|
| ①生徒に効果あるプログラム開発   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討委員会を立ち上げ、プログラム開発を実施</li> <li>・スライド、生徒向けワークシートの作成</li> </ul>                   | 群馬県内公立高校<br>熊本県内公立高校                     |
| ②企業が受入可能な支援整備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業へのヒアリング（実証受入企業）</li> <li>・研究会における課題感の抽出</li> <li>・企業向け受入マニュアル作成・実証</li> </ul> | 群馬県内企業<br>熊本県内企業<br>浜松市：企業向け研究会実施        |
| ③教員が実施可能なツール整備    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実施</li> <li>・教員向け勉強会の実施</li> <li>・指導演（教員向けマニュアル）の作成</li> </ul>                | 前橋県内公立高校<br>札幌市：教員向け研究会実施                |
| ④生徒と企業のAIによるマッチング | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチング用アンケートの作成（生徒向け・企業向け）</li> <li>・ロジックの構築</li> </ul>                          | 前橋県内公立高校<br>熊本県内公立高校<br>群馬県内企業<br>熊本県内企業 |

# 実施内容

## 【高校現場における実証内容】

### マッチング～プログラム内容

A) 熊本県内公立高校 【事前学習】2019年1月16日（水）【フィールドスタディ】1月24日（木）【事後学習】1月30日（水）

B) 群馬県内公立高校

【教員研究日①】2019年1月18日（金）【事前学習】2月7日（木）【フィールドスタディ】2月14日（木）

【教員研究日②】2019年2月15日（金）【事後学習】2月21日（木）

|              | A) 熊本 |                      |   | B) 前橋 |                      |  |
|--------------|-------|----------------------|---|-------|----------------------|--|
|              | 時間    | 形式                   | 内容  | 時間    | 形式                   | 内容   |
| 1) AIマッチング   | 15分   | アンケート                | マッチングに必要な様々な興味関心、パーソナリティなどを図るためのアンケート（マークシート形式）   | 15分   | アンケート                | マッチングに必要な様々な興味関心、パーソナリティなどを図るためのアンケート（マークシート形式）  |
| 2) 事前学習      | 2h    | ◎講義・ワークショップ          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や企業を取り巻く関係の概念を把握しつつ、地域産業・業界を理解し、それが人々の協働によっていることを学ぶ。</li> <li>・様々な企業の見方を知ることで「学び」と「仕事」が繋がっていることを知る。</li> </ul>  | 2h    | ◎講義・ワークショップ          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や企業を取り巻く関係の概念を把握しつつ、地域産業・業界を理解し、それが人々の協働によっていることを学ぶ。</li> <li>・様々な企業の見方を知ることで「学び」と「仕事」が繋がっていることを知る。</li> </ul>   |
| 3) フィールドスタディ | 3h程度  | 地域企業で体験学習（フィールドスタディ） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業を訪れ、説明を受ける。</li> <li>・地元企業でその企業の業務を体感する。</li> <li>・企業で働く人に質問をする。</li> <li>-受入先企業に事前学習で立てた質問をすることで、受入先企業や地域産業について学習する。</li> <li>-訪問企業が地域産業においてどのような立ち位置にあるのかを知る</li> </ul> | 3h程度  | 地域企業で体験学習（フィールドスタディ） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業を訪れ、説明を受ける。</li> <li>・地元企業でその企業の業務を体感する。</li> <li>・企業で働く人に質問をする。</li> <li>-企業内の人の役割分担を理解する。</li> <li>-受入先企業に事前学習で立てた質問をすることで、受入先企業や地域産業について学習する。</li> <li>-訪問企業が地域産業においてどのような立ち位置にあるのかを知る</li> <li>-学生時代のどんな学びが活かされているのかを知る</li> </ul> |
| 4) 事後学習      | 2h    | ◎プレゼン・グループディスカッション   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドスタディを通して受入先企業の仕事にどのような魅力があるのか、地域の中でどのような役割を担っているかを考察する。</li> <li>・フィールドスタディ先で発見したこと学んだこと、企業が抱える課題に対して自分がどうかわれるか、学びがどうつながるか、考えたことをまとめて発表する。</li> </ul>                    | 2h    | ◎プレゼン・グループディスカッション   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドスタディを通して受入先企業の仕事にどのような魅力があるのか、地域の中でどのような役割を担っているか、どのような学びが活かされるかを考察する。</li> <li>・フィールドスタディ先で発見したこと学んだこと、企業がチャレンジしている課題をプレゼンし共有。視野の広がりを実感し学習意欲の向上や自己効力感の向上につなげる。</li> </ul>  |

# 実施内容

## 【高校現場における実証内容】

学校に導入する際の課題感についてヒアリング  
研究会でのヒアリング・アンケートを実施

日時：2019年2月1日（金） 場所：ミライスト  
対象：北海道内高校教員様、自治体関係者様  
協力：札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会  
テーマ：探究学習の取り組み紹介および学校現場での導入や実施に関する課題について

## 【企業における実証内容】

受入の際の課題感についてヒアリング  
A) 実証事業受入企業からのヒアリング

B) 浜松市における研究会でのヒアリング・アンケート

日時：2019年2月12日（火）  
場所：浜松商工会議所  
対象：浜松商工会議所会員企業様  
協力：浜松商工会議所  
テーマ：  
高校のインターンシップの実施における受入側企業と高校、双方が抱える課題の共有、また自治体が抱える雇用面の課題等の共有。



## 成果：概要

今回の実証事業では、高校生にとって「学び」と「仕事」を接続させ学ぶことで、日々の学習意欲向上につながる事が期待できる結果が得られた。またAIによって選ばれた企業に行くことで、地域企業の認知を高めるとともに、仕事や自身のキャリアに対する視野が広がる結果につながった。

| 検討項目              | 達成したい状態  | 実際の達成度  | 理由・改善/発展の方向性   |
|-------------------|--|---|--|
| ①生徒に効果あるプログラム開発   | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの一部を完成・実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの一部完成・実施（事前事後4時間、FS当日3時間）</li> <li>効果検証</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「学び」と「仕事」の接続を強化</li> </ul>  |
| ②企業が受入可能な支援整備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>受入企業の確保</li> <li>受入内容の検討および導入課題の抽出</li> <li>受入マニュアルの完成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>期間もあったが、受入企業が十分に確保できなかった。</li> <li>受入内容の検討および導入課題の抽出</li> <li>受入マニュアル（汎用版）の完成</li> <li>効果検証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>受入企業における導入障壁（普通科高校受入への理解不足、スタッフ不足、インターンシップに対する先入感）が高く、受入に対する理解を促す活動などが今後急務。</li> <li>受入マニュアルについては業種や規模によって改善していくことも引き続き検討。</li> </ul> |
| ③教員が実施可能なツール整備    | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入課題の抽出</li> <li>実証授業分の指導案（教員向けマニュアル）の完成</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入課題の抽出</li> <li>指導案（教員向けマニュアル）完成</li> <li>効果検証</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実施前の勉強会なしでも教員が実施できるように教材・ツール（マニュアル）の整備が必要。</li> <li>教員の日々の業務量との調整が必要。</li> </ul>  |
| ④生徒と企業のAIによるマッチング | <ul style="list-style-type: none"> <li>マッチング用アンケートの作成・実施（生徒向け・企業向け）</li> <li>ロジックの構築</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>マッチング用アンケート（生徒向け・企業向け）完成・実施</li> <li>ロジックの構築</li> <li>効果検証</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業向けアンケートの簡素化</li> </ul>  |

# 成果：詳細

## 【①生徒に効果あるプログラム開発】

1月に熊本県内公立高校、2月に群馬県内公立高校において、実証授業を実施した。  
 地域企業をきっかけとして、企業活動について学び、それと学校の教科とのつながりを考察した。  
 結果としては、教科と社会が接続され勉強を頑張りたいとなるとともに、訪問企業の魅力を知り、進路を考える機会となった。

### ●生徒のワークブックより

印象に残っていること(言葉)は、「無駄なことは一つもなし」と「人生も楽しむということである。また、今現在、高校で学んでいる教科に必要ではないものはいいというのを学びました。よって教科にも必要ない教科は無いという気持ちでこれから学習に生かしたいです。

自分は今まで、この勉強、今や、この勉強が「今後何に役にたかばんと、この授業を受けるまでは分からなかった。でも、この授業を受けて、今来た方が受けている教育は今後大いに役にたかばんと痛感した。



## 成果：詳細

### 【①生徒に効果あるプログラム開発】

#### ●事後指導にて発表した生徒作成の報告書より（企業の課題理解を通して生徒が得たもの）

##### ■業界・社会状況理解

- ・車を持つから使う時代になった→レンタカーをより使わせるためにできることを考える必要あり
- ・整備士の減少→外国人の整備士を雇う
- ・食の安全性と信頼性→食品アレルギー・食品添加物に気をつける必要がある
- ・環境問題→食品廃棄を減らすには？エネルギー問題も考える必要がある
- ・世界的な農業人口の減少→海外研修の実施・受け入れをする必要がある

##### ■地域特性理解

- ・前橋市活性化のため、商店街に介護施設を建設→商店街へ利用者が行くことで相互にメリット
- ・前橋市は外国人からの問い合わせに対応することが多い
- ・産業と環境保全の両立のため自然に優しい工場敷地になっている
- ・若者採用数の減少→労働人口の多様化（年齢層が広い、外国人労働者を雇っている）
- ・観光業などへも電気の活用を考える

##### ■仕事の大変なところ・やりがい

- ・人を相手にしているので思い通りにいかない。責任がある。



# 成果：詳細

## 【②企業が受入可能な支援整備】

企業にとってのメリット/話してもらうテーマなどを検討。その上で、企業向け案内資料を作成した。

### ・浜松勉強会（2/12）

普通科高校のフィールドスタディを受け入れるにあたって、期待と課題を抽出した。以下に抜粋の例を示す。

|    |   |
|----|---|
| 期待 | 認知度<br>高校教員との接点<br>若者の思考を知る<br>社員教育になる<br>中小企業が変わるきっかけになる   |
| 課題 | コンテンツの内容を考える難しさ<br>フィールドスタディ担当の社員不足<br>社内の協力（人事以外の危機意識）<br>即効性がない<br>高校生に体験してもらいたいことが少ない<br>準備に時間が必要<br>交通費<br>安全に対する責任範囲<br>SNSでの情報拡散リスク |

### ・熊本/群馬での実証授業

熊本県では2社、群馬県では19社の企業と連携し、フィールドスタディを実施した。企業には受入マニュアルを整備し、学校での事前事後授業との連動を図るとともに、企業の受入負担を軽減した。

#### 【企業のアンケート結果】

- 受入準備の負担（5点満点、平均値）  
満足度：3.5、負担感：3.57、マニュアルの評価：3.57
- よかったこと  
真剣に生徒が取り組んでいた、企業の存在を知ってもらえた  
高校生の興味（職場の人間関係）が分かった、作業のみならず新しい形でできたこと
- 負担だったこと  
流れの説明、講演資料の説明
- ほしかった情報  
訪問する生徒の情報、事前授業の内容
- 不満だった点  
資料だけではなく口頭で説明がほしかった  
事前に生徒の質問を教えてほしかった
- 感想  
近年の弊社の採用は、理系の大学生と工業高校の高校生であり、普通科の生徒のインターンシップへの取組みは、少し難しく感じた

# 成果：詳細

## 【②企業が受入可能な支援整備】 浜松：企業向け研究会（2/12）

### ▼企業担当者アンケート結果抜粋

| 1.大学生インターンシップを受け入れている  |  |     |    |        |  |
|--|--|-----|----|--------|--|
| はい   | 24   | いいえ | 9  | 理由     | 1/採用のため：24<br>2/社員育成の一環：5<br>3/CSR：3<br>4/その他：2（企業・商品PR機会） |
| 2.高校生インターンシップを受け入れている  |  |     |    |        |  |
| はい   | 18   | いいえ | 15 | 受け入れ対象 | 1/工業：3<br>2/農業：1<br>3/商業：4<br>4/その他（普通科など）：11              |
| 理由   | 1/高卒採用：13      2/将来的な採用：11      3/社員育成：2      4/CSR：1<br>5/その他：2（高校からの依頼、地元の企業を知ってもらうため） |     |    |        |  |
| 3.インターンシップの受け入れに際しての課題・懸念点   |  |     |    |        |  |
| 1/準備の負担：16      2/人手不足：11      3/受け入れメリットを感じられない：1      4/採用に直結しない：8<br>5/コスト：2      6/ケガのリスク：5      7/物損リスク：3<br>8/その他：（受け入れようとしてもどこに申し込めばいいのかわからない、効果的なプログラムがわからない、参加人数が集まらない、活気ある雰囲気にするのが難しい、営業の仕事を体験してもらうためには取引先への許可が必要になる など） |  |     |    |        |  |

# 成果：詳細

## 【②企業が受入可能な支援整備】 浜松：企業向け研究会（2/12）

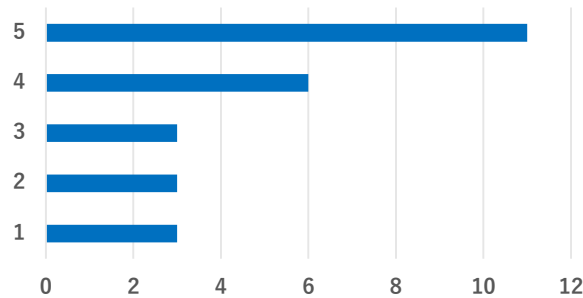
普通科高校のフィールドスタディを受け入れるにあたって、期待と課題を抽出した。以下に抜粋の例を示す。

|           |   |   |
|-----------|---|---|
| <p>期待</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・職種の認知向上</li> <li>・高校教員との接点</li> <li>・若者の思考を知る</li> <li>・Uターン就職</li> <li>・高校とのパイプ作り</li> <li>・社員教育になる</li> <li>・中小企業ならではの良さの認知</li> <li>・中小企業が変わるきっかけになる</li> <li>・県内大学進学率につながる可能性</li> <li>・地元全体の活性化につながる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の事業や働き方を早期に理解（認知）してもらえる</li> <li>・ネームバリューの向上</li> <li>・情報発信材料にもなる</li> <li>・志望業界のこともあまり良く知らないため、入り込む余地がある</li> <li>・言葉で説明するより実際に見たほうが印象づくしマッチング度は高い</li> <li>・県外の大学に行く学生に、Uターン就職も検討の1つに考えてもらえるようになる</li> <li>・早期にキャリアプランの選択肢に入ることができる</li> <li>・地元の産業を知ってもらうことができる</li> <li>・CSRの効果は大学インターンより大きい気がする</li> </ul> |
| <p>課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツの内容を考える難しさ</li> <li>・社内の協力（人事以外の危機意識）</li> <li>・即効性がない</li> <li>・高校生に体験してもらいたいことが少ない</li> <li>・準備に時間が必要</li> <li>・交通費</li> <li>・安全に対する責任範囲</li> <li>・SNSでの情報拡散リスク</li> <li>・高校の協力が得られるか</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リクルート活動としてのメリットは正直あまり感じない</li> <li>・外出することや事務所に入ることができないため、できることが限られている</li> <li>・インターンシップは学生・企業のどちらの希望なのか</li> <li>・高校生のやる気の問題（どういう気持ちで来ているかわからない）</li> <li>・短期で伝えることはできない</li> <li>・先生が知ろうとしていない 理解できない</li> <li>・自社への就活というより業界案内になってしまうのでは？と考える</li> <li>・フィールドスタディ担当の社員不足</li> </ul>                          |

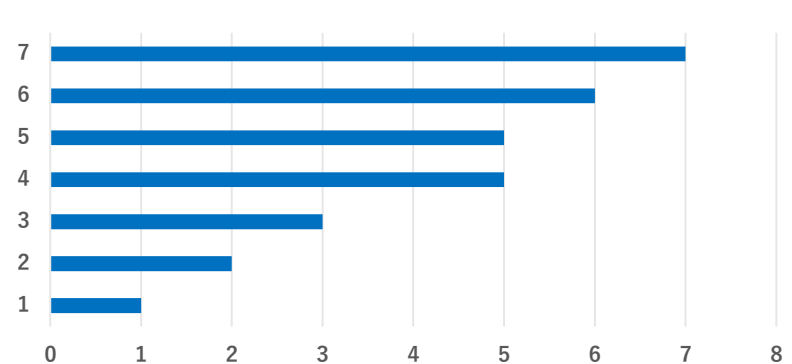
# 成果：詳細

## 【②企業が受入可能な支援整備】 受入企業アンケートより

【フィールドスタディプログラムを取り入れた理由】 (MA)



【準備段階で負担だったこと】 (MA)



●よかった点

- ・高校生に分かり易い資料づくりはどうすれば良いのかを確認しながら資料作成をすることができたので、目線を変えて自社の仕事を見つめなおすことができたことは良かった
- ・今の高校一年生はどのような考えを持っているのかを身近で感じることができた

●不満だった点

- ・学生に説明内容がきちんと届いているかわからなかった

【自由記述】

- ・近年の弊社の採用は、理系の大学生と工業高校の高校生であり、普通科の生徒のインターンシップへの取組みは、少し難しく感じた。
- ・生徒が企業を選べないということで、参加した企業への興味があまりなかったのではないかと思います。ただ、そのおかげもあり、今まで知らなかった弊社を知ってもらえることができ良かった（参加した10名全員がこの事業に参加するまで弊社を知らなかったそうです）。回数を重ね、将来地元で就職する人が増えればよいと思います。そのためにも継続が必要かと思ます。

# 成果：詳細

## 【③教員が実施可能なツール整備】

探究学習プログラムを教員が実施できるように、課題と可能性を整理し、実施可能性を高めるツールを整備した。

### ・札幌勉強会（2/1）

本プログラムの柱となる「地域企業連携」と「探究学習」について、可能性と課題をワークショップ形式で整理した。以下、意見の例を示す。

|         |  |
|---------|--|
| 探究×可能性  | 社会がもつ課題を知ることによる学ぶ意味の理解<br>高校生が学びに興味をもつ     |
| 探究×課題   | 時間がない<br>フォーマットが必要<br>教員の研究<br>高大接続        |
| 企業連携×課題 | 地元への認識の広まり<br>社会課題を体験できる<br>異年代との交流        |
| 企業連携×課題 | コネクションがない<br>企業の継続性<br>企業のメリットの確保<br>リスク管理 |

### ・群馬県内公立高校での実証授業（2/7, 14, 21）

群馬県内公立高校では教員が授業を行う形式で実証を行った。事前には、教員が授業をするために教材に求められる要件を定義し、授業の前には必ず検討会を行って現場の教員から課題をヒアリングした。最終的には、4つのツール（ワークブック・指導案）を整備した。ワークブックは教員の準備時間を削減するため、当初の想定より大幅に記述を厚くし、教科書のような様式とした。また、実証当初スライドを開発する予定だったが、ICT整備の問題等により紙資料を基本とした。

#### 【教員のアンケート結果（抜粋）】

（肯定的）

- ・企業の魅力や特色を生徒が意識すること自体がおもしろいことだと思う。
- ・「年間を通して」「目標までの道筋を考える」などの長い時間が必要だ

（否定的）

- ・生徒も教員も負担が大きすぎる
- ・より生徒の興味を引き付けるような導入の教材が必要（⇒生徒・教員ともにワクワクさせるような事例を盛り込めるか）

# 成果：詳細

## 【③教員が実施可能なツール整備】札幌勉強会（2/1）

探究学習プログラムを教員が実施できるよう、課題と可能性を整理し、実施可能性を高めるツールを整備した。

本プログラムの柱となる「地域企業連携」と「探究学習」について、可能性と課題をワークショップ形式で整理した。  
以下、意見の例を示す。

|          |  |   |
|----------|--|---|
| 探究学習×可能性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会がもつ課題を知ることによる学ぶ意味の理解</li> <li>・高校生が学びに興味をもつ</li> <li>・発見や創造することの喜びを感じ、前向きになる</li> <li>・「授業つまんねえ」→「授業楽しい！」</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きて働く知識として、学校の学びを再認識できる</li> <li>・教員も探究的な姿勢になる</li> <li>・リアリティある「将来の活躍している自分」を意識させる</li> <li>・教科学習への動機づけ</li> </ul>   |
| 探究学習×課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がない（誰がやる？）</li> <li>・「探究」としてのフォーマットがない</li> <li>・「問い」を設定させられない</li> <li>・教員の研究必要（そもそもの知識が乏しい）</li> <li>・探究とは、生徒に目的を示すのが難しい</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の基準をどうするのか？個人の判断で良いのか？</li> <li>・自ら行動を起こせない生徒が取り残される</li> <li>・教科と探究学習が結びつかない</li> <li>・教員のスキルが（圧倒的に）足りていない</li> </ul>  |
| 企業連携×可能性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元への認識の広まり（地域活動への参加・人口流出の減少）</li> <li>・地元を語れる人材育成</li> <li>・トレンドにあった授業を構成できる</li> <li>・社会課題を体験できる</li> <li>・異年代との交流</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きた数学の教材になる</li> <li>・「この企業と学べる」など、高校のブランド化</li> <li>・企業は若者視点の情報を得るチャンス</li> <li>・働くとは、お金を稼ぐ以外のことを知ることができる</li> </ul>   |
| 企業連携×課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷惑をかけてしまう（将来の就職時に悪いイメージになる）</li> <li>・コネクションがない（企業を見つけるのがたいへん）</li> <li>・企業の継続性</li> <li>・企業のメリットの確保</li> <li>・リスク管理</li> <li>・高校内に担当が必要となるが、教員は転勤してしまう</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理 責任体制</li> <li>・課題（企業・地域のもつ）を認識する中で、地域に悲観的印象を生徒が持つてしまう</li> <li>・生徒への礼儀・しつけ指導に手間をとられてしまう</li> <li>・生徒の行きたい企業と受け入れてくれる企業のミスマッチ</li> <li>・教科学習と関連づけるのが難しい</li> </ul> |

## 成果：詳細

### 【④生徒と企業のAIによるマッチング】ロジック概要

#### ●目的

受け入れ枠に限りのある各インターンシップ先企業に対して、相性の良い高校生達を割り当て、授業の効果を最大化する

#### ●要件

- ・インターンシップ先企業の受け入れ枠に、効果の高い高校生を割り当てる。
- ・割り当て人数の多いインターンシップ先は、複数のグループに分け、授業を円滑に行えるようにする。
- ・学生を複数グループに分ける際には、4～6人程度の偶数人数になるようにし、教室でおこなわれる事前・事後授業を円滑に行えるようにする。

#### ●方法（マッチング全体の流れ）

- ・用意したアンケートに「生徒」「受入企業」どちらにも回答をしてもらい、データ化する。
- ・アンケート結果データを入力として、AIによる受入企業への割り当てを実施する。
- ・アンケート結果データを入力として、人数の多いインターンシップ先の企業のグループ分けを実施する。